

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育研究組織が、理念・目的に照らして適切なものであるか1年に1回学部長室委員会で定期的に検証を行う。	→学部長室委員会での検証状況。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

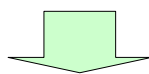
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 大学の学部・学科の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである。社会の要請に従って2009年から工学系の要素の強い人間システム工学科、現在社会で必要性が高まっている数学の基礎と応用を教育・研究する数理科学科を新設し、これまでの理工学部の基礎教育に基盤をおいた人材育成に加えて、応用分野の充実も達成した。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 学部長室委員会及び教授会において毎年資料を配付して、検討している。
☆ その他	この理念・目的を進化的にさらに発展させるためには、理系を拡大し応用分野を充実させる必要があり、大学新中期計画において、現在理系充実策を検討中である。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	



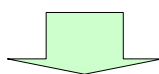
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○教育研究組織の充実が順調に進展しています。

【学内委員】

○進捗評価がAであること、そして小項目4.0.1の現状説明が「社会の要請に従って2009年から工学系の要素の強い人間システム工学科、現在社会で必要性が高まっている数学の基礎と応用を教育・研究する数理科学科を新設し、理工学部の基礎教育に基盤をおいた人材育成に加えて、応用分野の充実も達成した。」との内容は整合性が取れています。その一方、「0 理念・目的」の改善すべき事項で「社会との繋がりを強化するため、理系を拡張し応用分野の更なる充実を図る。」とあり、本シートの現状説明のその他にも同様の事が記されています。この辺りの整合性がいささか気になります。
○教育研究組織の適切性についての検討は設置された目標に沿って適切に行われており、この点は大いに評価できます。大学新中期計画における新たな理系分野の充実策についても順調に進展していると思われま。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★0.1 (現状説明)	現時点では教育研究組織は適切なものと言えるが、社会の理系分野に対するニーズの急速な増加を考えると、近い将来現在の理工学部では、十分な理系教育ができない可能性があり、さらなる拡充が望まれる。
-------------	--

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

--	--

<個別的な指標>

--	--